

## 第7回 II. 周防灘 (3) 神籠石系山城と初期仏教寺院

### I はじめに

神籠石系山城と朝鮮式山城

### II 豊(前)の神籠石系山城

- (1) 御所ヶ谷
- (2) 唐原

### III 神籠石系山城の年代と築造の背景

### IV 豊(前)の初期仏教寺院

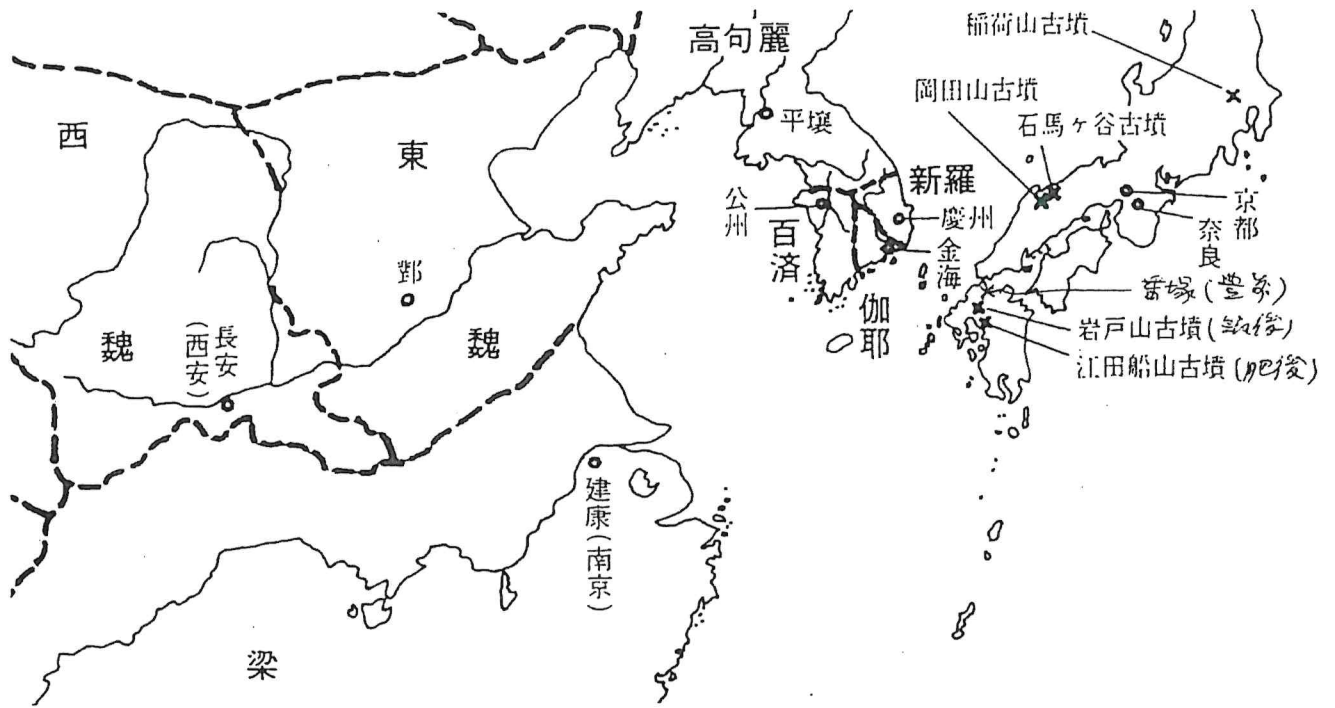
- (1) 京都郡・椿市廃寺
- (2) 上毛郡・垂水廃寺—友枝瓦窯跡
- (3) 下毛郡・相原廃寺
- (4) 宇佐郡・法鏡寺跡、弥勒寺跡
- (5) 田河郡・天台寺跡

### V 高句麗・百濟・新羅系と法隆寺系瓦出土の背景

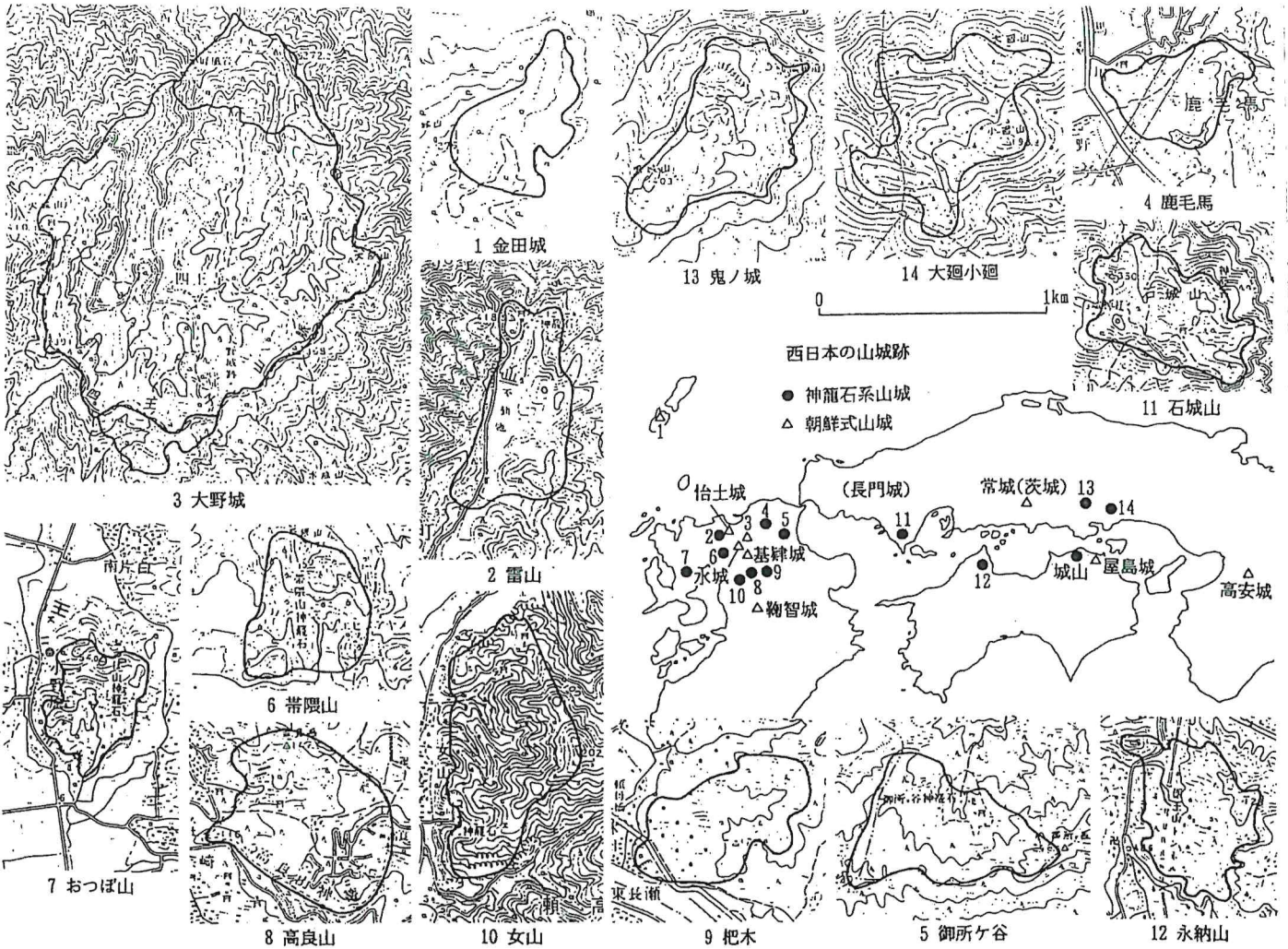
### VI おわりに

豊から豊前・豊後へ





6世紀前半代の東アジア



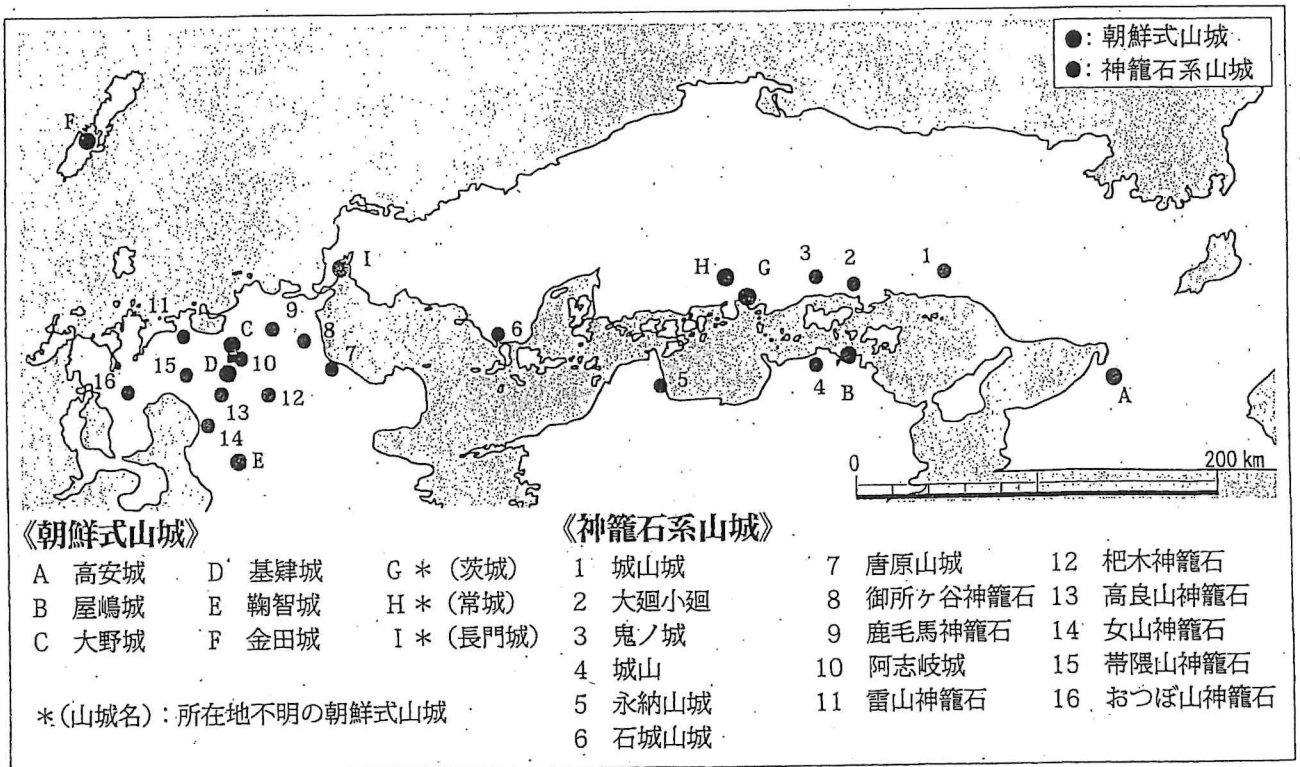
# 古代山城所在地

## 朝鮮式山城

図面記号	山城名	府県名	都市名
A	高安城	大阪府	八尾市
		奈良県	平群町
			三郷町
B	屋嶋城	香川県	高松市
C	大野城	福岡県	大野城市
			太宰府市
			宇美町
D	基肄城	佐賀県	基山町
		福岡県	筑紫野市
E	鞠智城	熊本県	山鹿市
			菊池市
F	金田城	長崎県	対馬市

## 神籠石系山城

図面記号	山城名	府県名	都市名
1	城山城	兵庫県	たつの市
2	大廻小廻	岡山県	岡山市
3	鬼ノ城	岡山県	総社市
4	城山	香川県	坂出市
			丸亀市
5	永納山	愛媛県	西条市
			今治市
6	石城山	山口県	光市
7	唐原山城	福岡県	上毛町
8	御所ヶ谷	福岡県	行橋市
			みやこ町
9	鹿毛馬	福岡県	飯塚市
10	阿志岐城	福岡県	筑紫野市
11	雷山	福岡県	糸島市
12	杷木	福岡県	朝倉市
13	高良山	福岡県	久留米市
14	女山	福岡県	みやま市
15	帯隈山	佐賀県	佐賀市
			神埼市
16	おつぼ山	佐賀県	武雄市



大野城市・大野城市教育委員会, 2009 『古代山城プレサミット〜神籠石・朝鮮式山城』

# 神籠石が造られた時代とその背景

朝鮮式山城は7世紀半ばの東アジアをめぐる動乱の中で築城された山城であり、その築城時期も『日本書紀』の記事からも明らかです。これに対して神籠石系山城は、いつ頃、誰が、どのような目的で造ったか定かではありません。以前は弥生時代終末期(邪馬台国時代)の砦であるとか、筑紫君磐井が大和政権に対抗して築城したもの、などの説もありましたが、現在は朝鮮式山城と同様に、7世紀の対外的な緊張関係の中で築城されたという意見に集約されつつあります。ただその築城が、大野城や基肄城などの「天智紀」に登場する山城に先行するの、後出するのかは学会でも大きな問題となっています。

先行説の多くは『日本書紀』の「斉明紀」4年(660年)「繕修城柵」記事を神籠石築城とします。百濟救援軍を率いた斉明天皇が築城したのが「神籠石」とする考えです。多くの神籠石は663年の白村江の戦い後に未完成で放棄され、一部は修築されて朝鮮式山城を補完するように並存したと考えられています。

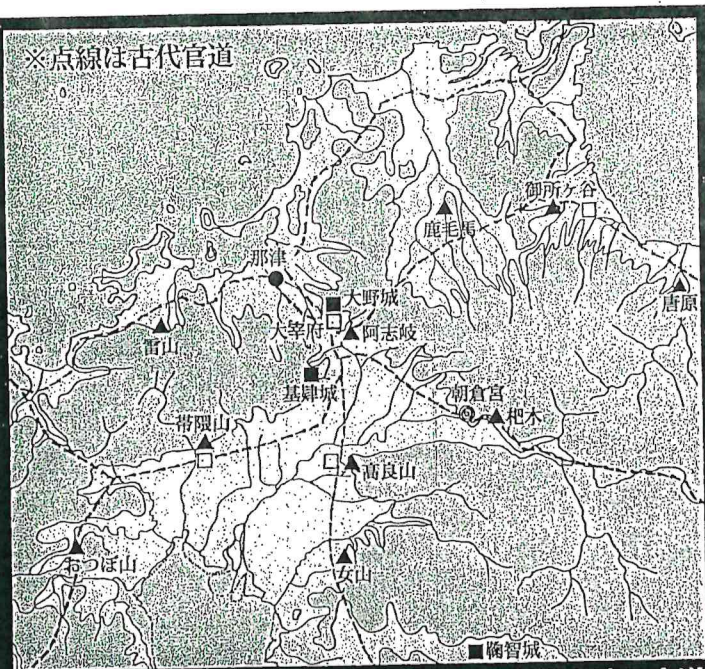
一方の後出説は、立地や城壁の形態など個々の山城の形態差を地域性によるものとはせず、時期差と捉え、その目的も対外防衛的な色彩が薄れ、律令制化に伴う地域支配の拠点へと変化していったと考えています。

## コラム 神籠石と古代交通網

現在の国道に相当する「官道」が整備されたのは天武天皇の時代(7世紀後半)といわれます。九州では西海道と呼ばれ、「遠の朝廷」であった大宰府を中心に放射状に整備されました。

官道と神籠石(神籠石系山城)の位置を照らし合わせてみると、その大半が近くに接することが分かります。神籠石の築造理由が対外的な緊張によるものと考え、鹿毛馬神籠石(飯塚市)や杷木神籠石(朝倉市)など内陸にある神籠石はその役割を果たせないとの指摘もありましたが、実は古代において、神籠石は交通の重要拠点に位置していました。

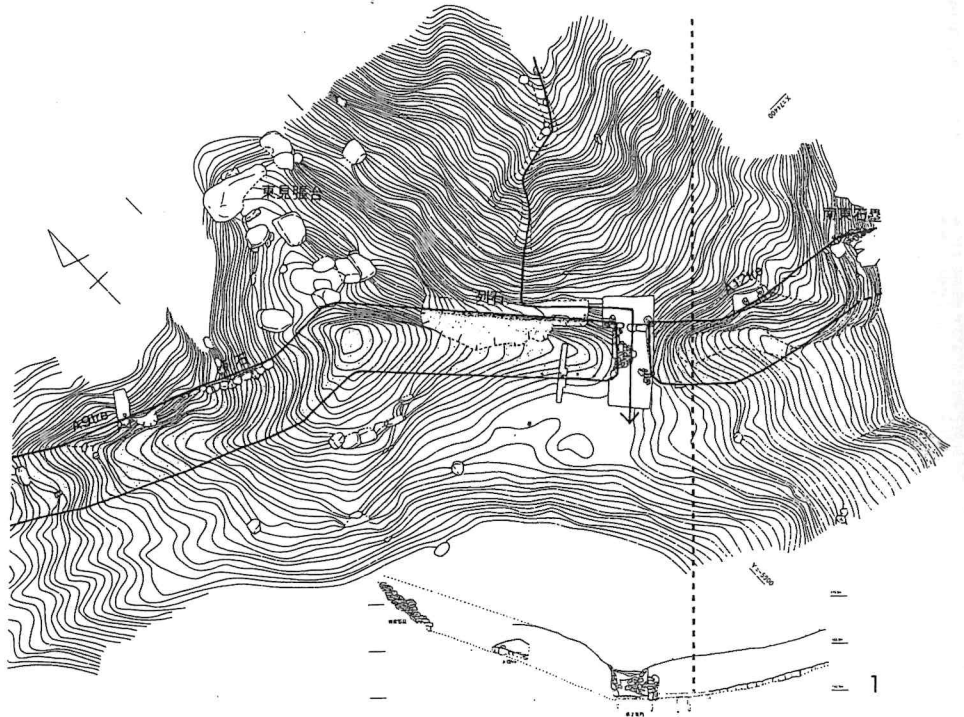
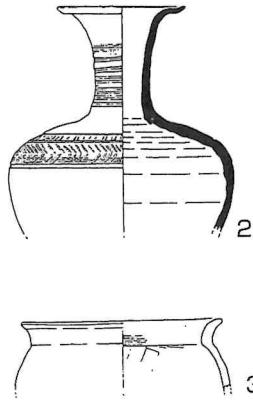
当然のことながら陸上交通だけでなく海上交通も視野に入れ、烽火などの情報連絡手段を用いながら、個々の山城が機能していたことを考えないといけません。



古代山城と官道



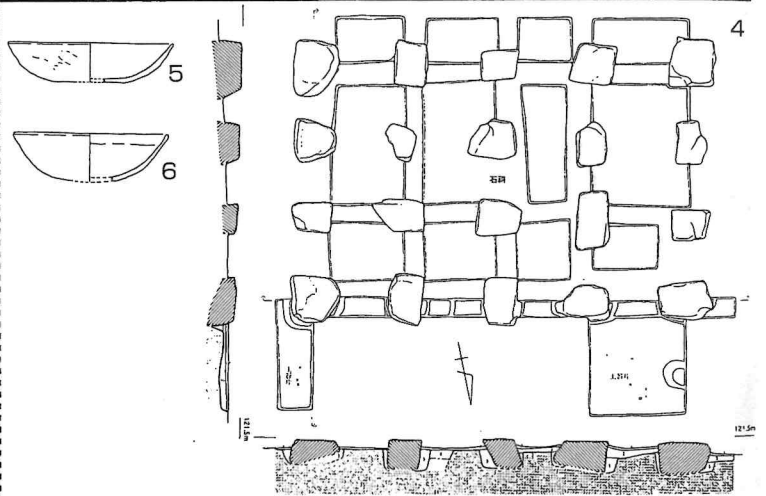
御所ヶ谷神籠石山城の官道跡  
(大谷車堀遺跡)



1~3 は第 2 東門周辺概念図及び出土土器



▲1、御所ヶ谷神籠石全景



4~6 は礎石跡及び出土土器

第27図 御所ヶ谷東門概念図・礎石跡・出土土器実測図 (縮尺 1=1/800、4=1/160、他は 1/6)



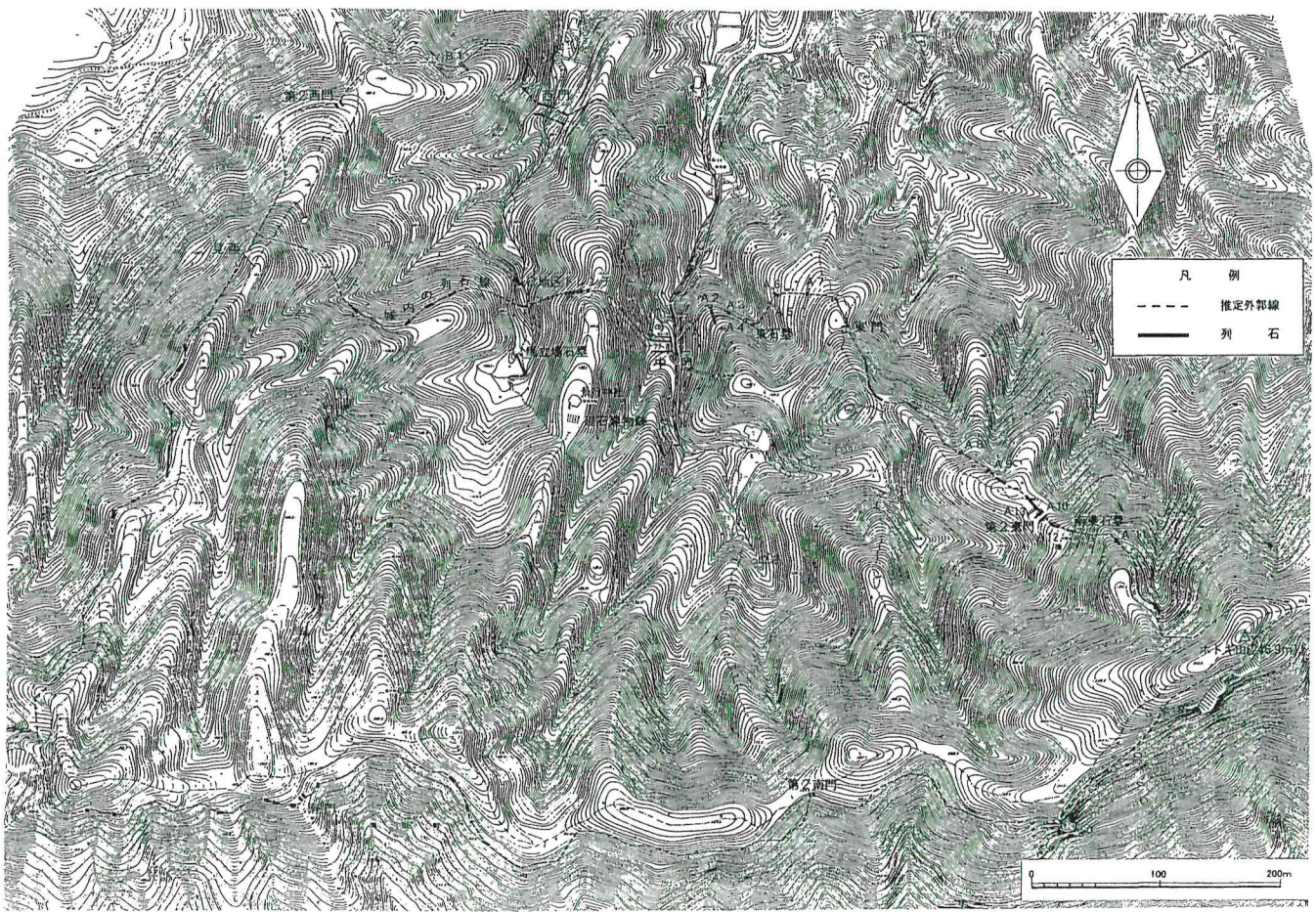
▲3、中門近景 (北西より)



▲2、中門遠景 (東南より)

御所ヶ谷神籠石全景及び中門

新田町歴史資料館, 2010 『豊前地方の遺宝 律令時代と豊前国』  
(2010年特別展示図録)



御所ヶ谷神籠石全測図



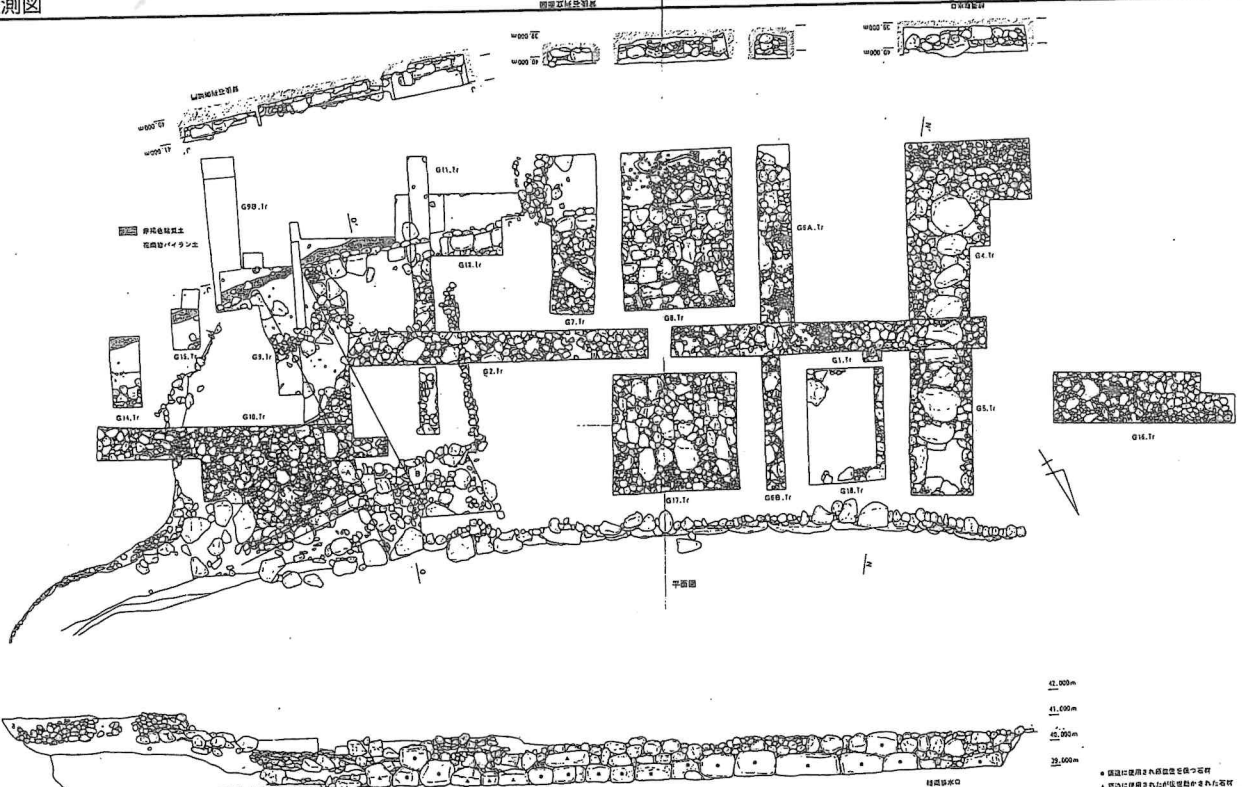
中門実測図

御所ヶ谷神籠石全測・中門実測図 (縮尺 1=1/500、2=1/300)

砺田町歴史資料館, 2010 年



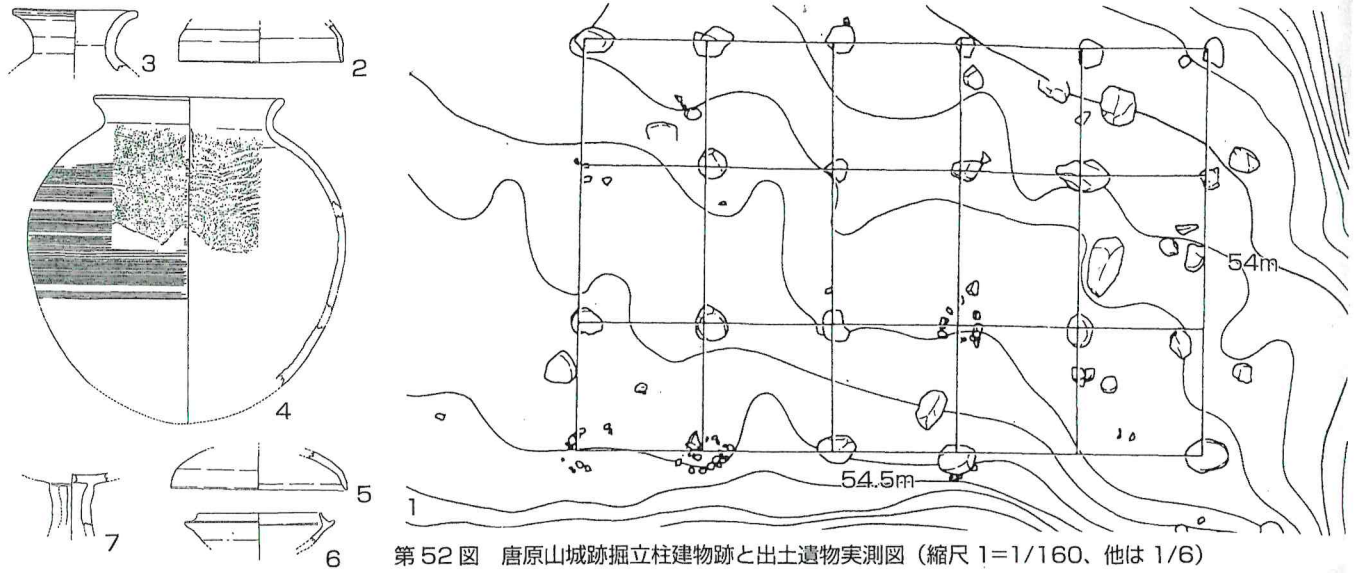
全測図



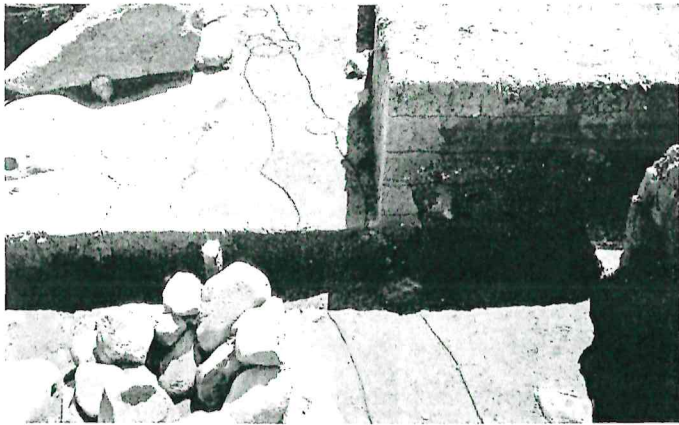
第1水門・平面・トレンチ位置図

唐原山城跡全測図及び第1水門・平面・トレンチ位置図 (縮尺 1/5000、1/300)

苅田町歴史資料館, 2010 年



▲1、第1水門前面石列全景 (北から)



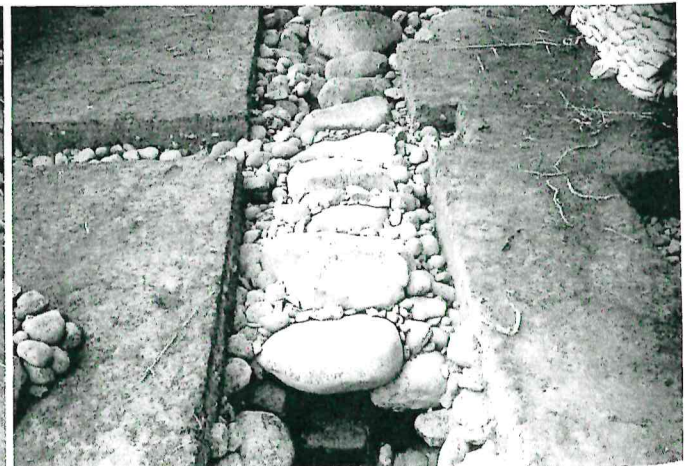
▲4、城門検出状況 (西から)



▲2、石列補築状況 (南から)



▲5、礎石建物跡全景 (南から)

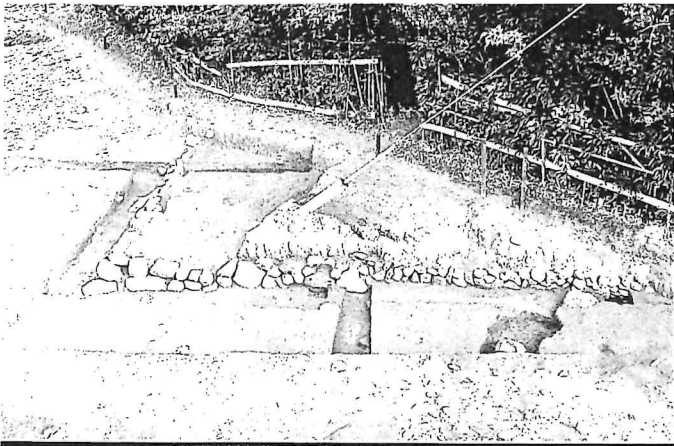


▲3、水門と蓋石

唐原山城跡第1水門と礎石建物跡

梅田町歴史資料館, 2010から





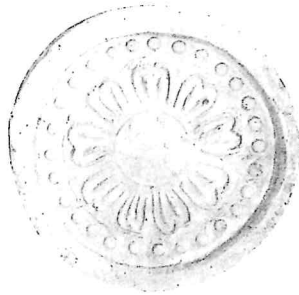
▲2、講堂基壇北西隅部（西から）



▲1、楯市廃寺寺域周辺（東から）



▲6、塑像螺髪



▲5、複弁八弁蓮華文軒丸瓦

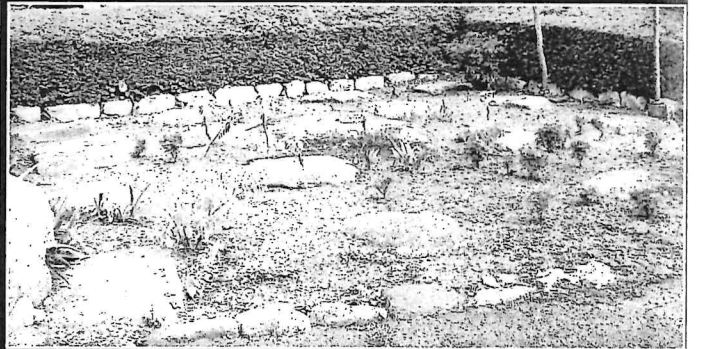


▲4、複弁八弁蓮華文軒丸瓦



▲3、重弧縁単弁八弁蓮華文軒丸瓦

▼11、御所ヶ谷神籠石中門跡



▲7、菩提廃寺塔基壇跡（東から）



▲9、単弁十六弁蓮華文軒丸瓦

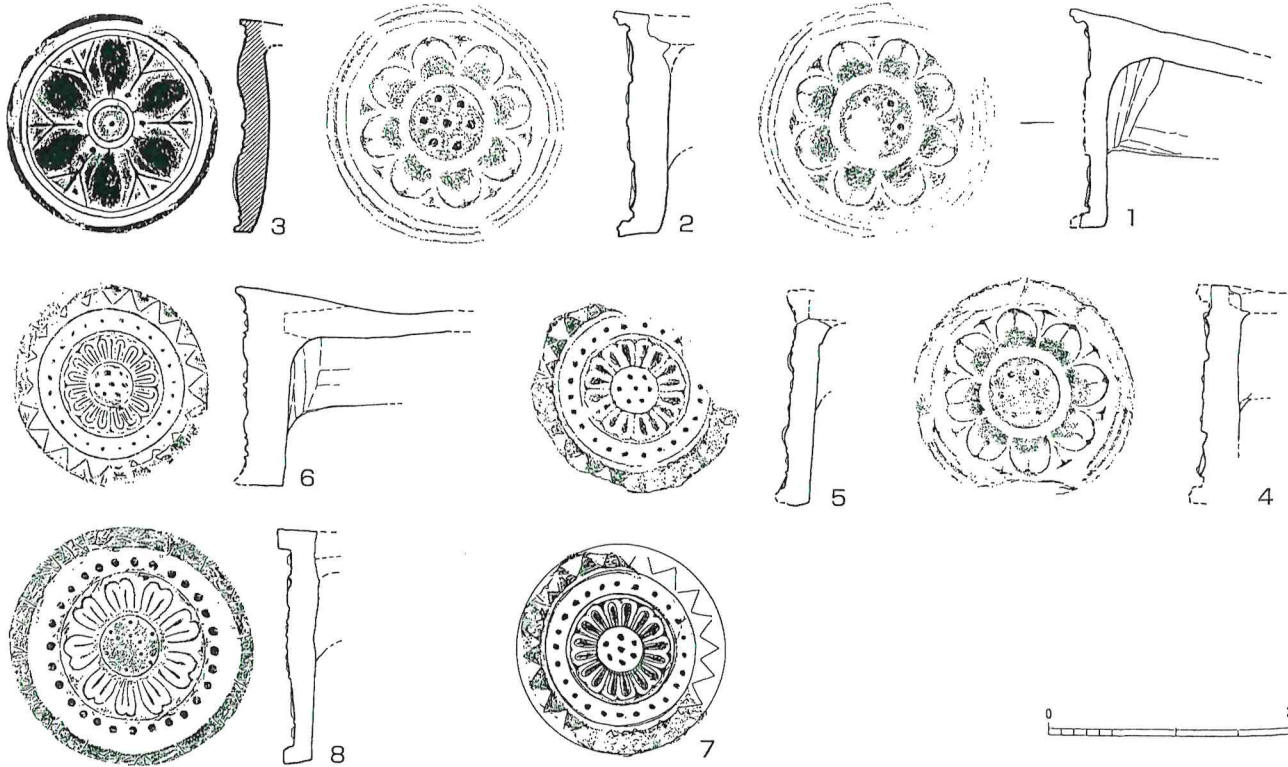
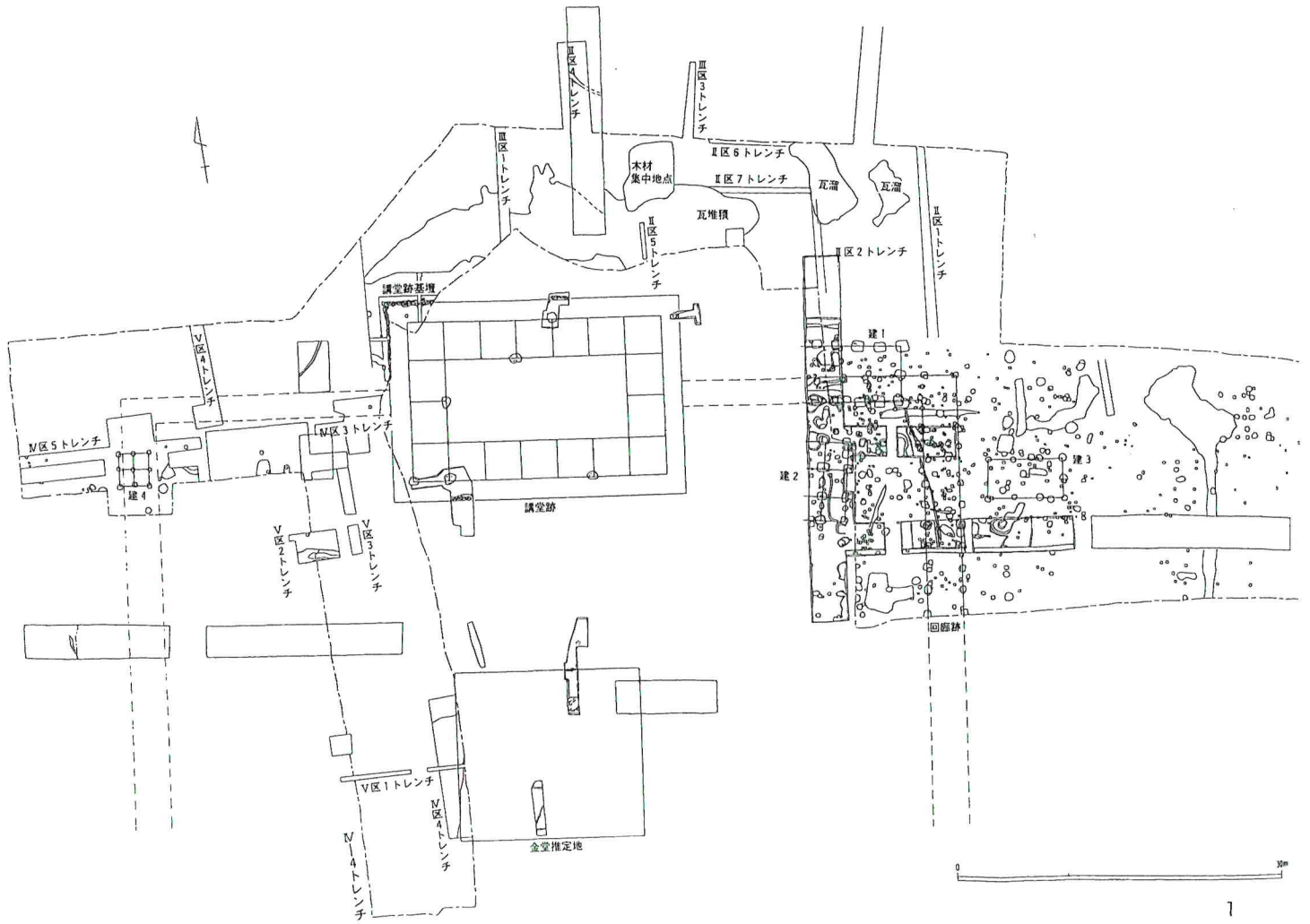


▲8、単弁十三弁蓮華文軒丸瓦と忍冬唐華文軒平瓦



▲10、単弁十六弁蓮華文軒丸瓦

菊田町歴史資料館, 2010から

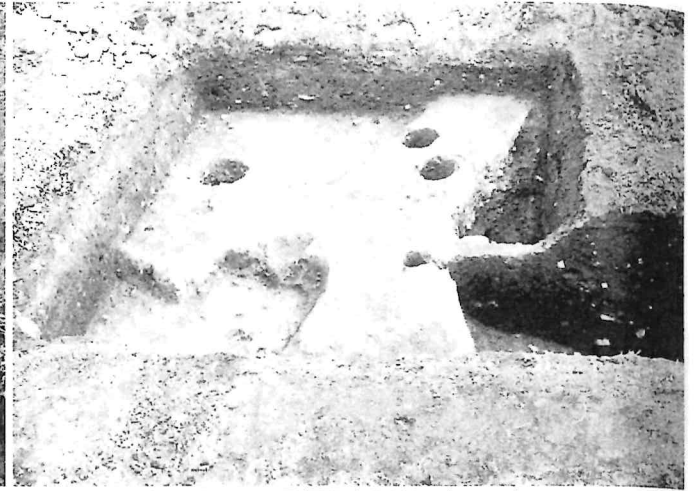


椿市廃寺 I~V区遺構配置図・軒丸瓦実測図 (縮尺 1=1/600、他は 1/6)

菟田町歴史資料館, 2010 年



▲2、礎石および礎石落とし穴 SX011 (南から)

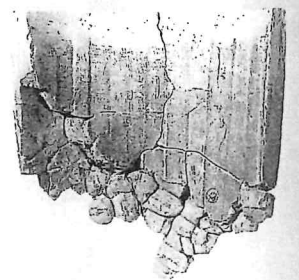


▲1、I-O区第1トレンチ発掘調査北側部 (西から)



▲4、単弁八弁蓮華文軒丸瓦(百濟系) ▲3、単弁八弁蓮華文軒丸瓦(百濟系)

▲6、重弧文軒平瓦(木葉状叩き文) ▲5、重弧文軒平瓦



▲10、複弁八弁蓮華文軒丸瓦(新羅系) ▲9、重弧文軒平瓦(麟状木葉状叩き文) ▲8、重弧文軒平瓦 ▲7、重弧文軒平瓦



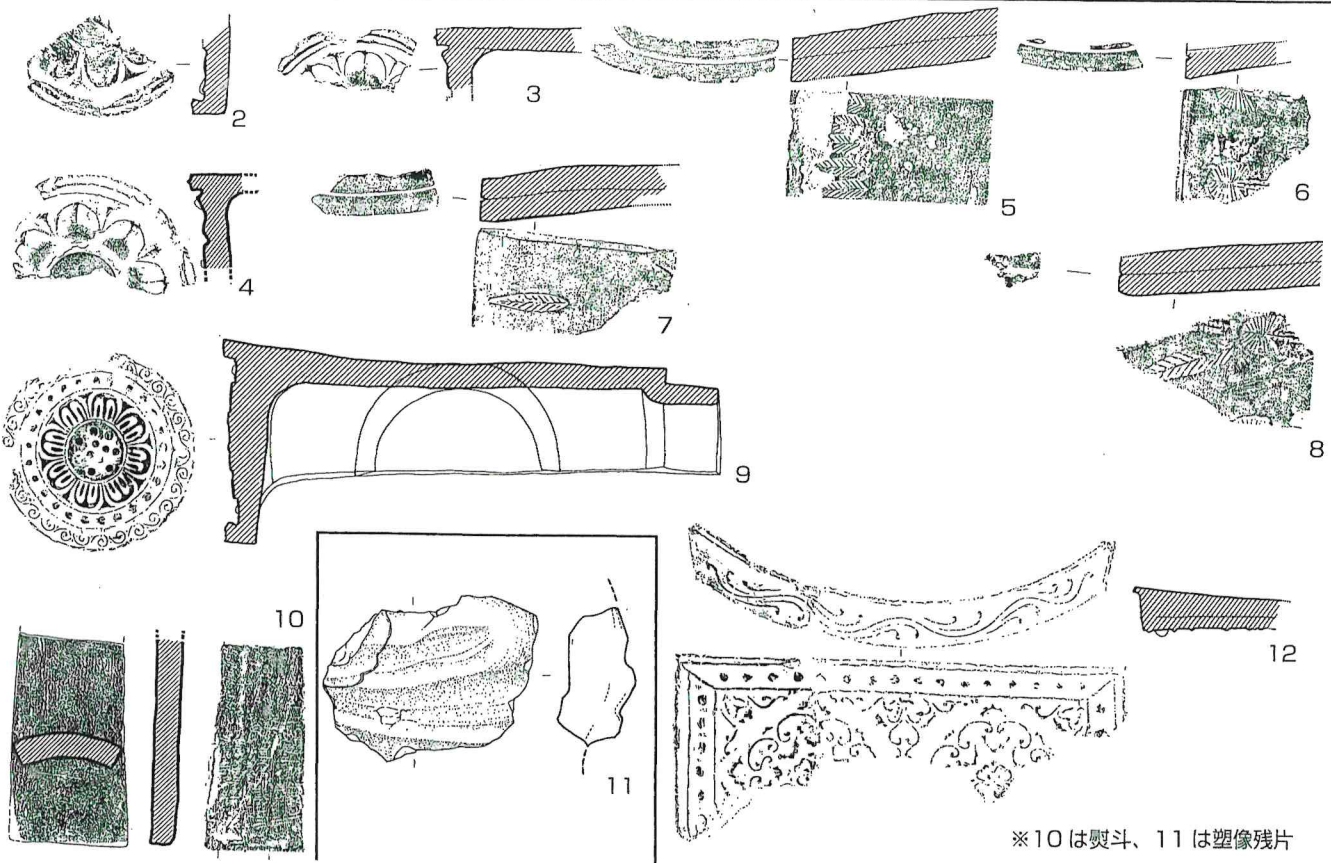
▲14、朔像残欠

▲13、文字瓦 (□(州?) 四枚 ● (□(頁?) 五枚)

▲12、扁行唐草文軒平瓦(新羅系) ▲11、扁行唐草文軒平瓦(新羅系)

垂水廃寺遺構と出土遺物

菟田町歴史資料館, 2010 年



官路延長線と垂水廃寺推定域及び垂水廃寺出土遺物実測図（縮尺 1=1/5000、11=1/2、他は 1/6）

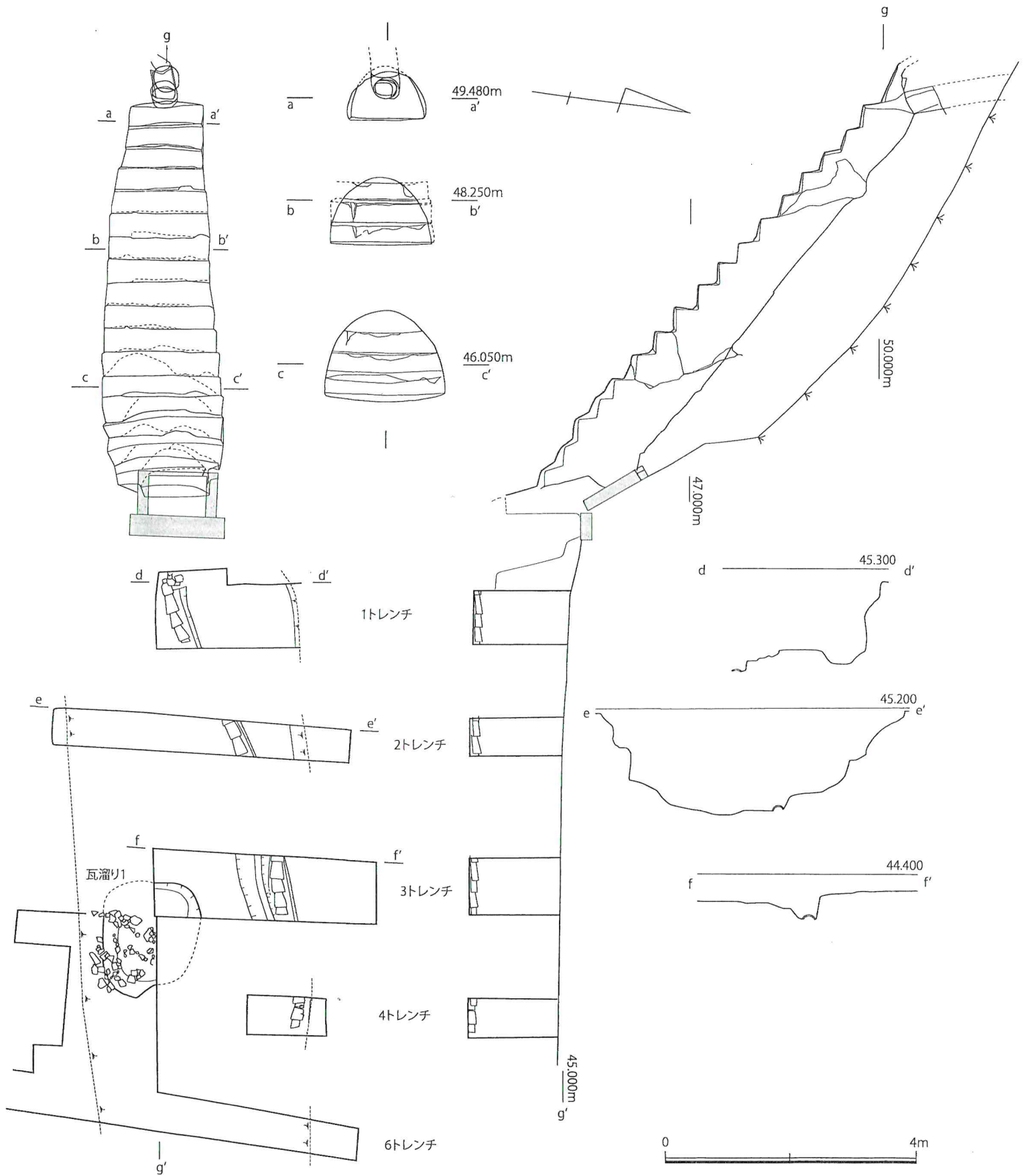
苧田町歴史資料館, 2010 年



第2図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

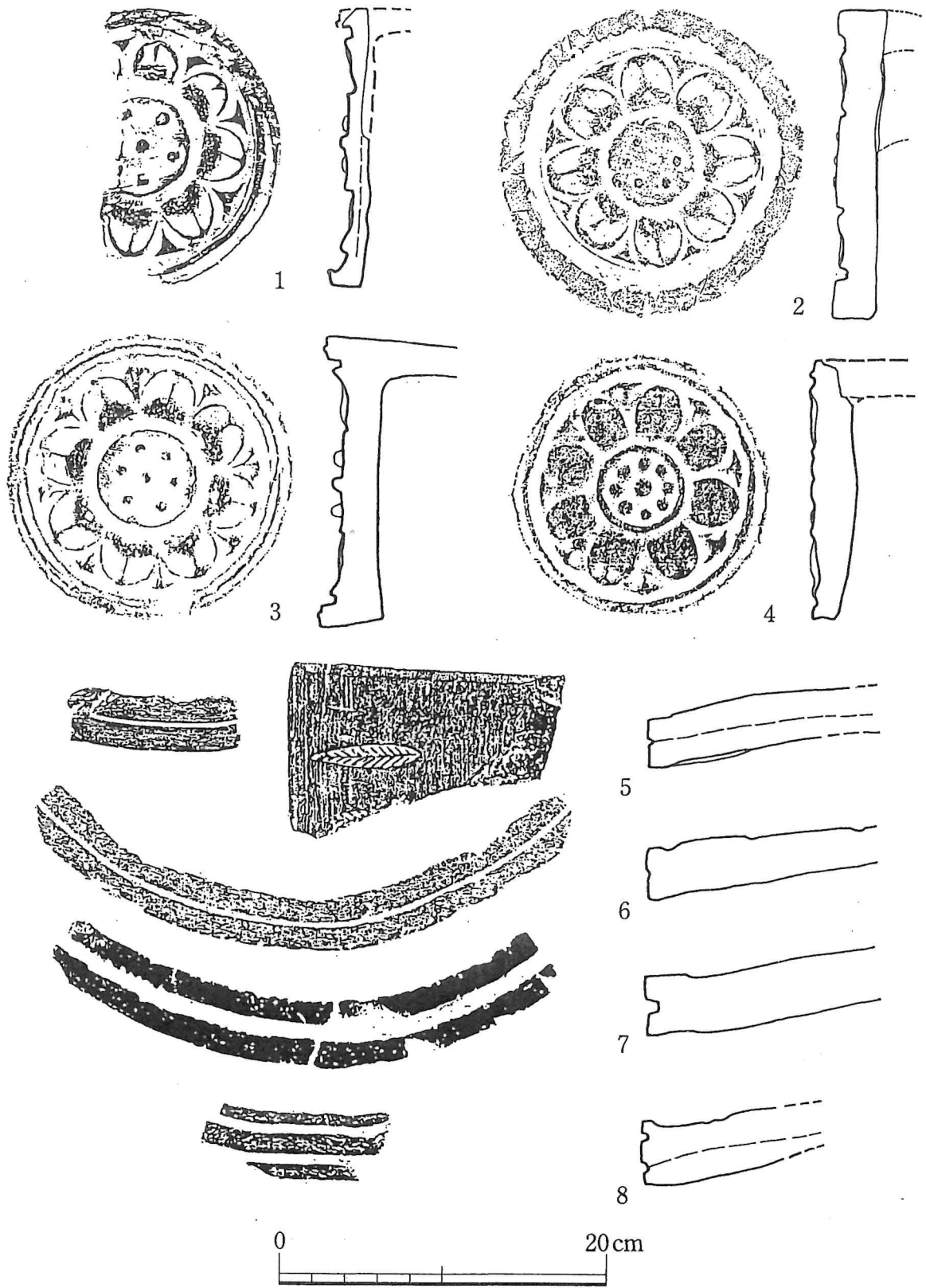
1. 尻高畑遺跡 2. 照日遺跡群 3. 山田古墳 4. 山田窯跡群 5. 友枝瓦窯跡 6. 土佐井ミソツテ遺跡 7. 今蔵遺跡 8. 土佐井遺跡
9. 宇野台古墳 10. 垂水廃寺 11. 垂水遺跡 12. 牛頭天王遺跡 13. 中桑野遺跡 14. 桑野題遺跡 15. 穴ヶ葉山古墳群 16. 穴ヶ葉山遺跡
17. 穴ヶ葉山南古墳群 18. 能満寺古墳群 19. 西方古墳 20. 上ノ熊古墳群 21. 皿山古墳群 22. 上唐原横穴 23. 百留横穴
24. 下唐原居屋敷遺跡 25. 下唐原宮園遺跡 26. 下唐原川下遺跡 27. 古代官道 28. 正ノ坪遺跡 29. 安雲ハタガタ遺跡
- A. 垂水地区遺跡群 B. 宇野代遺跡 C. 上桑野遺跡 D. 桑野遺跡 E. 大塚本遺跡 F. 小松原遺跡 G. 上ノ熊遺跡 H. 金居塚遺跡
- I. 郷ヶ原遺跡

新吉富村教育委員会, 1999 『垂水廃寺Ⅱ 宇野地区遺跡群Ⅰ』  
『新吉富村文化財調査報告書』第12集



1号瓦窯跡全体実測図 (1/80)

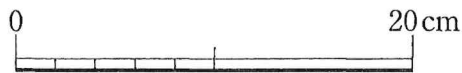
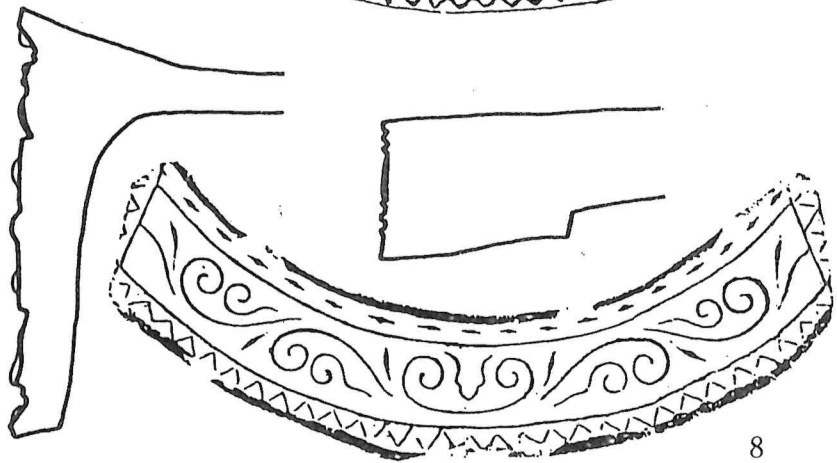
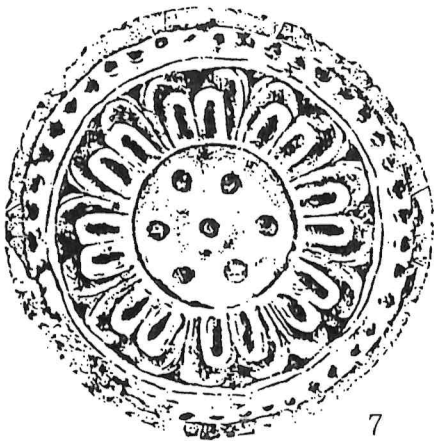
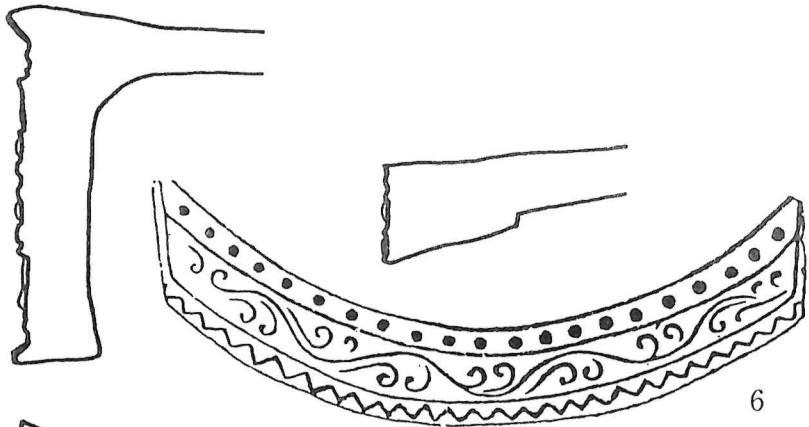
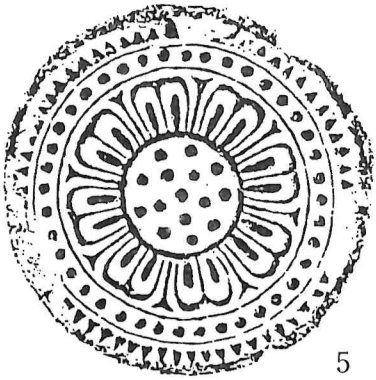
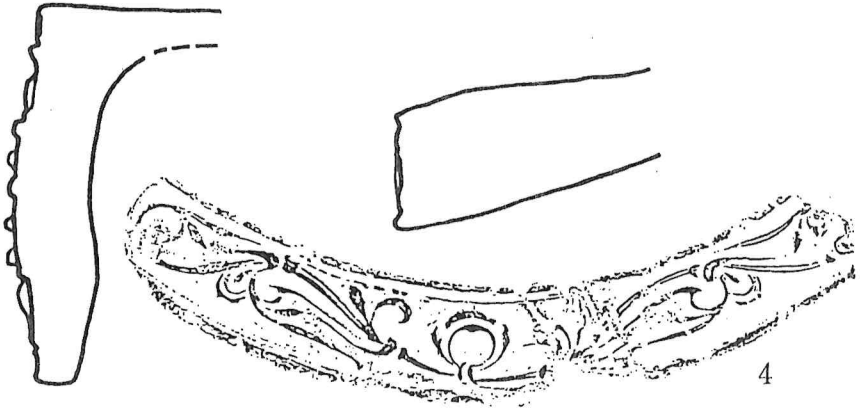
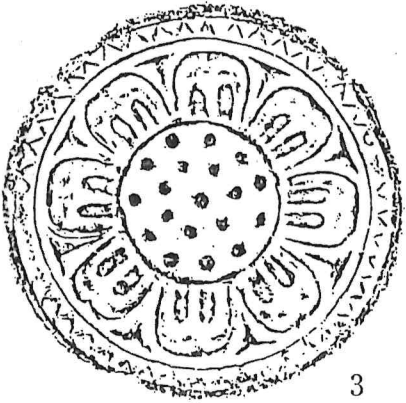
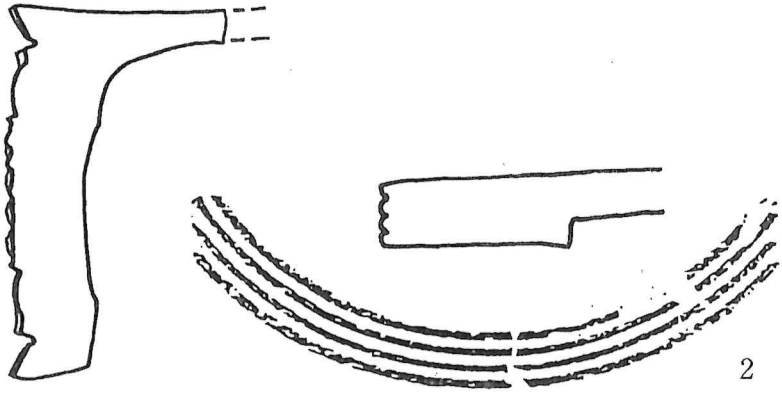
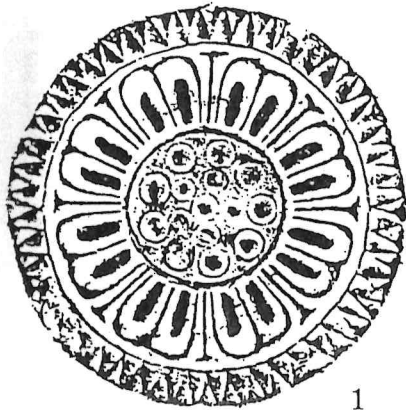
上毛町教育委員会, 2019 『友枝瓦窯跡Ⅱ』 『上毛町文化財調査報告書』  
第24集



「百済系単弁軒丸瓦」・重弧文軒平瓦および関連する瓦

- 1 伊藤田窯跡群, 2 法鏡寺跡, 3・8 木山廃寺, 4 大和坂田寺跡  
 5 垂水廃寺, 6 上坂廃寺, 7 椿市廃寺

亀田修一, 2006 『日韓古代瓦の研究』 吉川弘文館

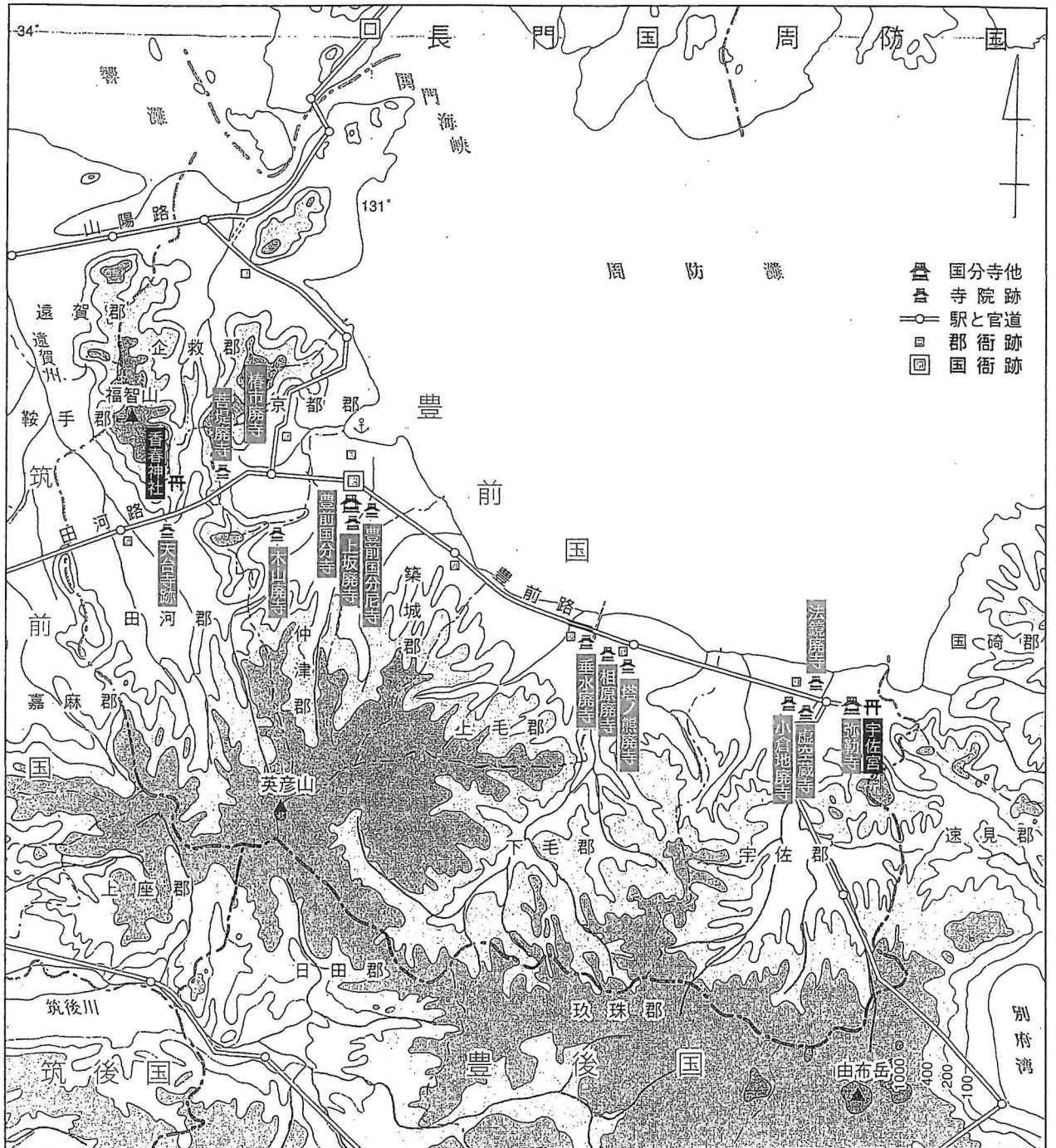


主流派瓦および関連する瓦

1・2 川原寺式, 3・4 法隆寺式, 5・6 藤原宮式, 7・8 大官大寺式

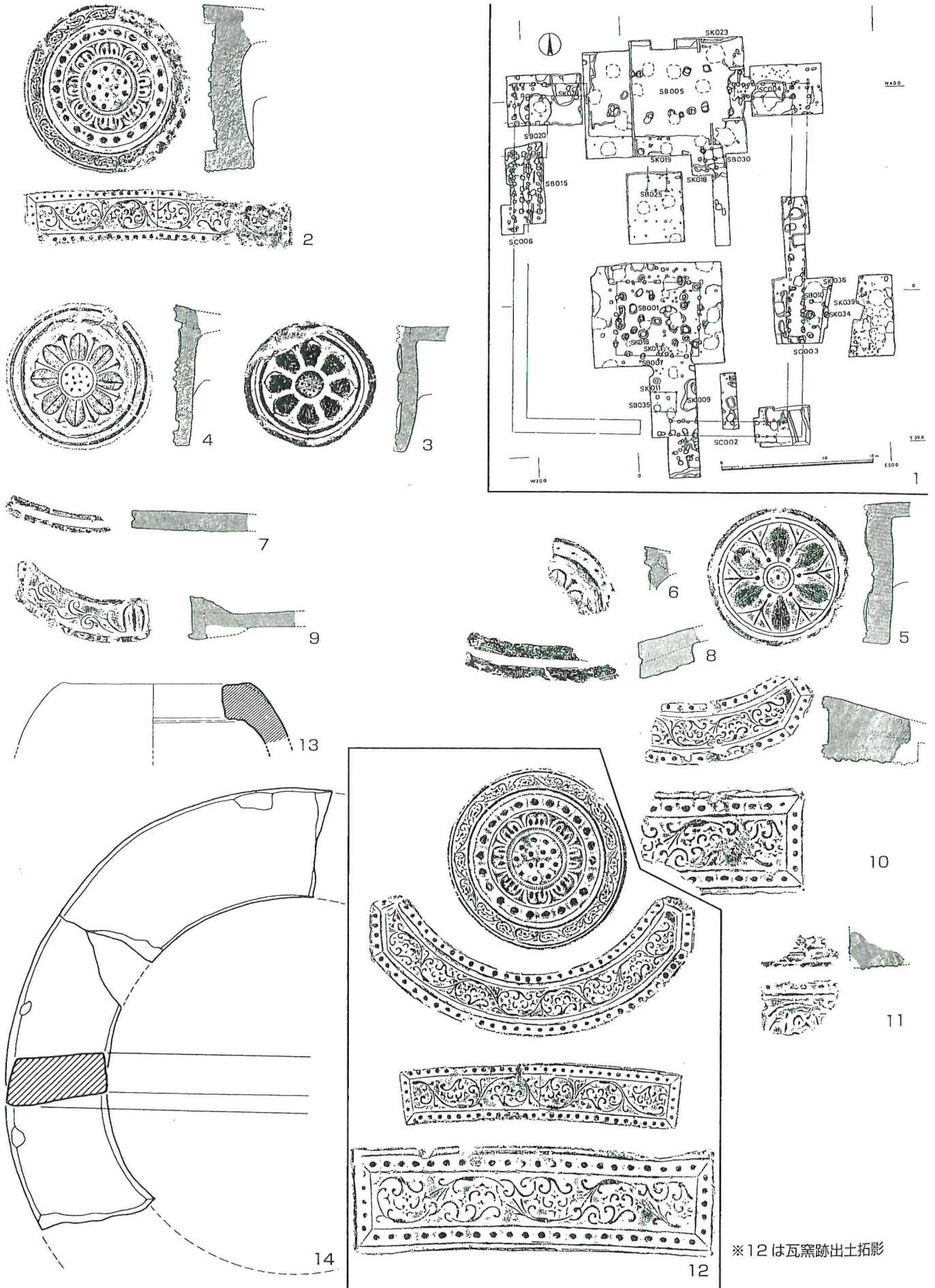
亀田修一, 2006 『日韓古代瓦の研究』吉川弘文館





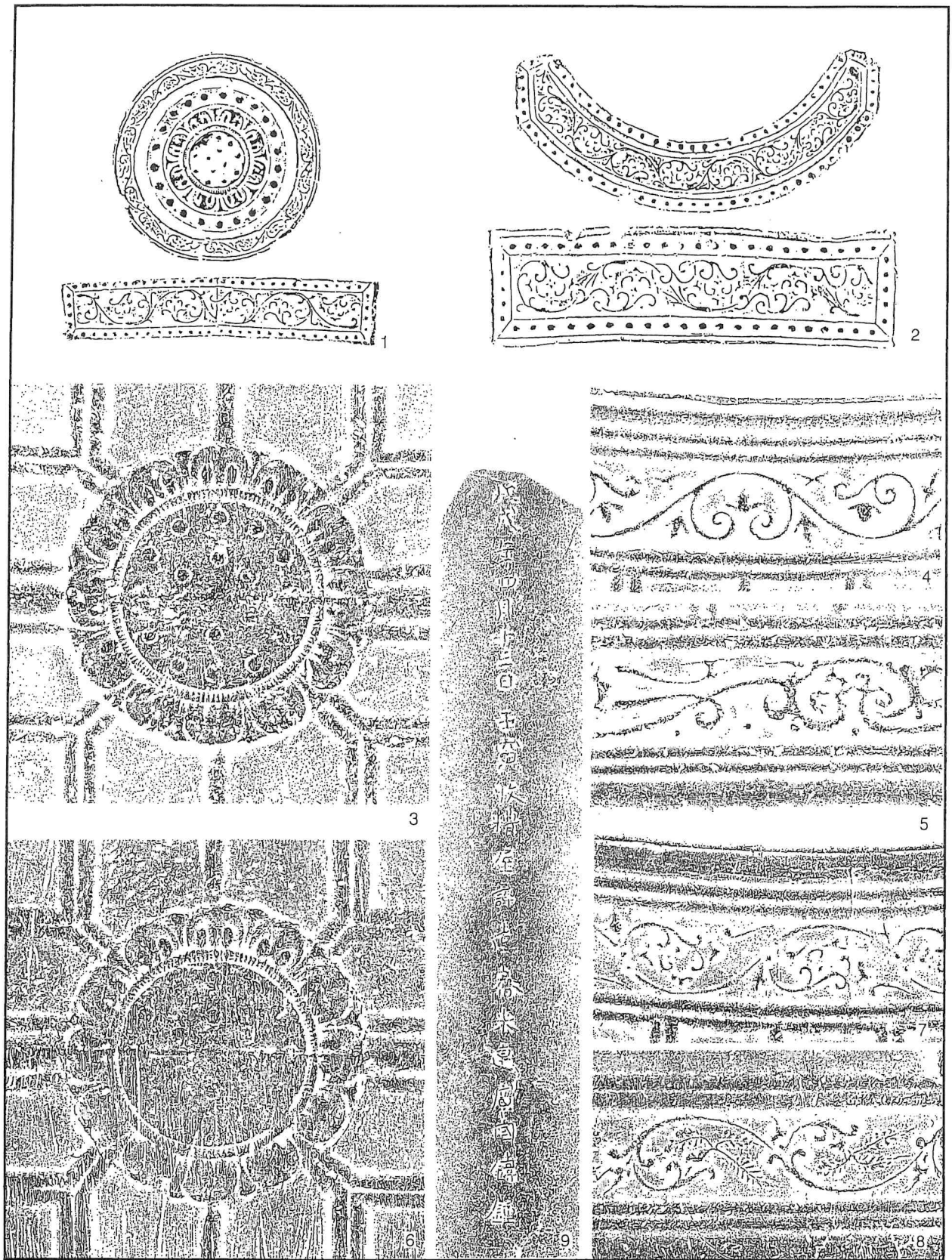
豊前の古代寺院および関連遺跡位置図 (縮尺 1/250,000)

苅田町歴史資料館, 2010年



天台寺跡遺構構配図及び出土遺物実測図 (縮尺 1=1/500、他は 1/6)

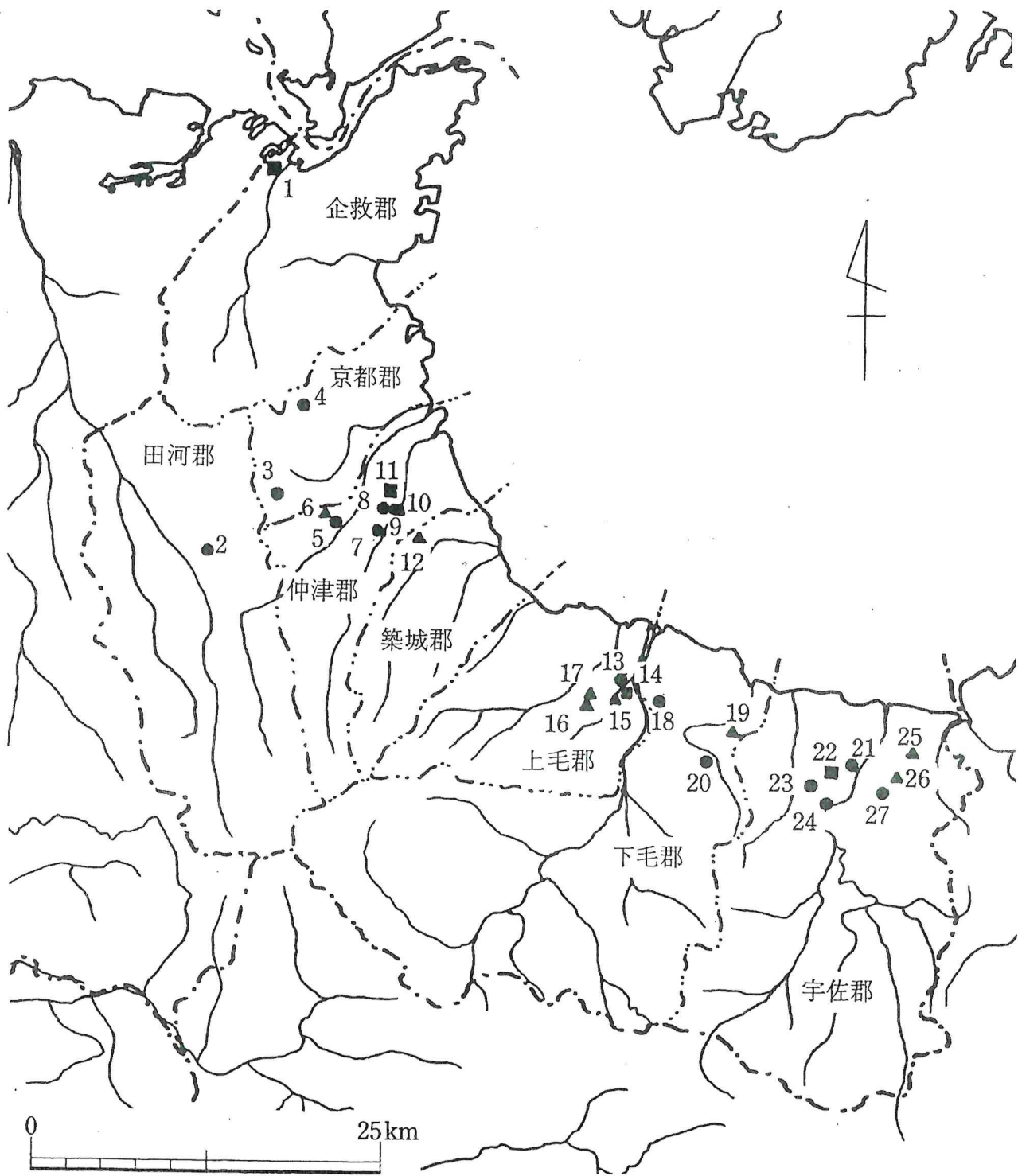
菟田町歴史資料館, 2010年



天台寺軒先瓦 (1・2) 観世音寺梵鐘撞座 (3) 上帯 (4)  
 下帯 (5)  
 妙心寺梵鐘撞座 (6) 上帯 (7)  
 下帯 (8)  
 銘文 (9)

天台寺軒先瓦、観世音寺と妙心寺梵鐘拓本 勝山町史編纂委員会編 2006年『勝山町史』より転載

灯田町歴史資料館, 2010 加号



豊前地域の古代寺院および関連遺跡位置図

- 1 小倉城下屋敷跡, 2 天台寺跡・天台寺瓦窯跡, 3 菩提廃寺, 4 椿市廃寺
- 5 木山廃寺, 6 福六瓦窯跡, 7 上坂廃寺, 8 豊前国分寺跡, 9 豊前国分尼寺跡
- 10 徳政瓦窯跡, 11 豊前国府跡, 12 船迫窯跡群, 13 垂水廃寺, 14 中桑野遺跡
- 15 桑野原瓦窯跡, 16 友枝瓦窯跡, 17 山田窯跡群, 18 相原廃寺, 19 伊藤田窯跡群
- 20 塔ノ熊廃寺・塔ノ熊瓦窯跡, 21 法鏡寺跡, 22 瓦塚遺跡, 23 小倉池廃寺
- 24 虚空蔵寺跡・虚空蔵寺瓦窯跡, 25 野森窯跡, 26 尻掛瓦窯跡, 27 弥勒寺跡

梶田修一, 2006 『日韓古代瓦の研究』吉川弘文館